

283

520

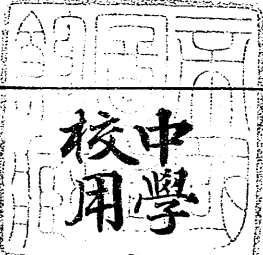
中學  
校用  
春堂習字帖  
中

K220.72
74
2

K220.72

74

2



合資  
會社  
育英書院發行

中學用

春堂習字帖

中

大正  
15. 10. 16  
丙亥

一 本書毛筆手本の部の輪廓は、從來の手本の形式とちがつて半紙一枚の輪廓を縮めうつしたものですから、その中の文字の位置は即ち半紙面の字配であります。

一 ペン字手本の文字の大きさは、習ふ場合の文字の大きさを示してあります。そのつもりで夫々用紙を選定して下さい。

右有者孝

石原府痛

好防施殘  
短細切功

昌炎竹林

日明森林禁榮

進起延題  
冠魁競鳩

郎部陸陽  
街衛歌鉄

內閣陸軍海軍  
外務內務文部  
鐵道大藏逋信  
司法農林商工



古陵，松柏  
吼天飈

山寺尋春  
春寂寥

眉雪，老僧  
時輟帚

落花深處  
說南朝

古陵松柏吼天飈  
山寺尋春春寂寥  
眉雪老僧時輟帚  
落花深處說南朝

しだれ柳の影ひたす  
村と村とのやうかひ川  
波があらおる土手際に  
今日も人待つ渡守

花の雲鐘は上野か浅草か  
心冠者出て花見る人を答めけり  
これはくとはかり花の若野山  
何事ぞ花見る人の長刀

明治天皇御製

器にはしたかひ

ちから岩のねも

とけすは水の

ちからながけり

水は方圓の器に  
随ひ人は善惡の  
友に依る

樹欲靜而  
風不止。  
子欲養而  
親不待。

樹欲靜而風  
不止子欲養  
而親不待

祖 父 母 伯 叔  
從 兄 弟 姊 妹  
甥 姪 孫 親 族

忠孝無二  
文武不岐  
學問事業  
不殊其效

忠孝無二文武  
不岐學問事業  
不殊其效



早起有健  
康長壽之  
效以學術  
技藝著者  
多出早起  
之人。

早起有健康長  
壽之效以學術  
技藝著者多出  
早起之人

少年易，老  
學難成。

一寸光陰  
不可輕

未覺，池塘  
春草夢

階前，梧葉  
已秋聲

少年易老學難成  
一寸光陰不可輕  
未覺池塘春草夢  
階前梧葉已秋聲

人涉世如  
行旅然途  
有險夷日  
有晴雨畢  
竟不得避  
只宜隨處  
隨時相緩  
急

人涉世如行旅然途  
有險夷日有晴雨畢  
竟不得避只宜隨處  
隨時相緩急

冷風立ちて一葉の落つるに秋を  
知り野邊の千草蟲の聲に月影  
さへも隈なくてとりぐなる物の  
あはれは此の頃ぞまさされる

子入に染むる紅葉を秋の  
名残と一して本枯さわか  
寂しき冬の夜を痛み雪に  
慰みて早くも年は暮れぬ

垣根の川に魚をどり  
軒端の山に鳥遊ぶ  
うかべる雲はかへりみず  
求めぬ富はあまりあり

岸にはひらく花のまゆ  
岸には揺づる苔のひげ  
つまねぬ眺め山深く  
浮世のおもひ水あはし

命もいらす名もいらす友位も金  
もいらぬ人は始末に困るもの  
なり姑の始末に困る人なら  
では艱難を共にして國家の  
大業は成し得られぬなり



豹死留皮，豈偶然。

湊川遺跡，水連天。

人生有限，名無盡。

楠氏精忠，萬古傳。

豹死留皮豈偶然  
湊川遺跡水連天  
人生有限名無盡  
楠氏精忠萬古傳

皇明光日月，  
帝德載天地，  
三才並泰昌，  
萬國表臣義。

皇明光日月帝  
德載天地三才  
並泰昌萬國表  
臣義

元旦試筆

自ら帚を執りて清らかに庭掃きたる後直  
に落葉の一ひら二ひら落霜紅の一顆二顆落散り  
たるを見ては流石になましく思ふを免れざ  
りしが心をかへて観れば地に帚目のあるがため  
葉の散れるも實の散れるも趣をなして寧ろを  
かゝるとも思ひなましくしたる嬉しき。

大澤商店用箋

お徳賣店特製改定毛布第一回に出荷の試賣  
は公定價格の低廉なると品質の堅固なるより  
當地一々ハ世帯の好評を博し十日を以てして全  
部售罄の中百後前冬百枚也至急の發運お成度  
為知様より委託の申し奉る聲を廣く類以て堅固  
長くと容易のうちに有るに際し一層品質即吟味  
下さればお四分委託金ハ本月末了すよ送付はるべくお旨  
お様より承下されば先ハ右の注文書に報り奉る 敬具

大澤長一郎

中村商店 印

大正 年 月 日

武者少路原より「向日葵」を二部送りて  
一部を原より送りてくれよとす送りてくれ  
しつゝ原にあつたらおつて送りてくれよとす  
てありませ原より曰く「それなら送りてくれよと  
うも知れません」二部を送り送りません  
一字豊隆をいとおつての書あげて下さい少し賞  
めらむとすくれと書になりませ

目君の宿所は千駄ヶ谷ハ三エなり

南無七重七堂伽藍八重栴

時秋奈奈のよき栴浮池畔の一酒杯の疲道なき  
栴の標手に休めて之笠のよきとて春の月  
を眺めて居ます也を語ると南園重の五重塔  
のよき今を暮りとてさうさうと居る栴にお  
ほらの秋を池にいたして居る風情とてとて  
しとてさうさうと居るよきとてさうと居る  
よきとてさうと居るよきとてさうと居る

田所三平之

様



南無七重七堂伽藍八重栴  
藤倉栴吉

K2227

# 中村春堂書



宮田六左衛門刻

大正十五年十月五日印刷  
大正十五年十月十一日發行

中村春堂習字帖 全三冊  
上、中、下卷 各金貳拾六錢

著作  
所有

著者  
印發者  
刷行者

中村梅太郎  
東京市牛込區白銀町廿九番地  
合資會社 育英書院  
代表者 倉田八十八

精興社印刷

發行所  
發賣所

東京市牛込區白銀町廿九番地  
振發口座(東京)七四二番  
東京市京橋區南傳馬町三丁目  
振發口座(東京)二八〇九番

合資會社  
育英書院  
目録書店

283  
520

